

経営比較分析表（令和3年度決算）

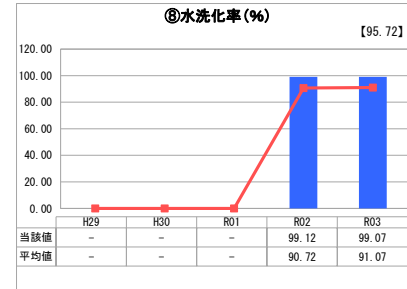
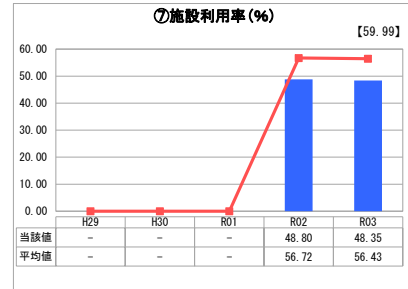
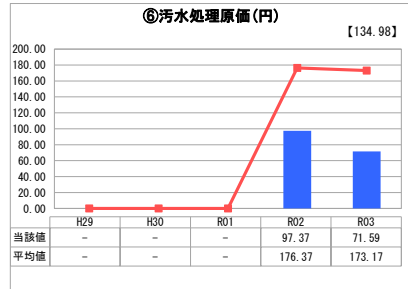
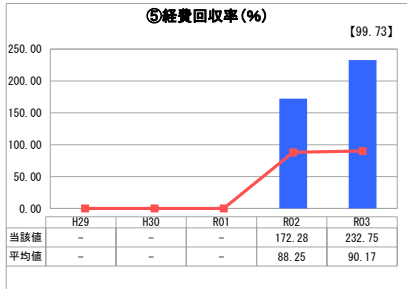
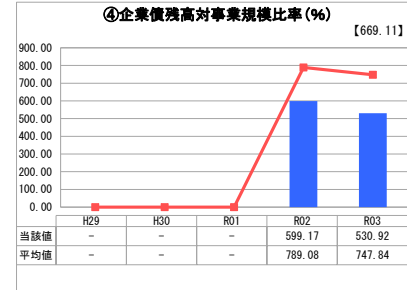
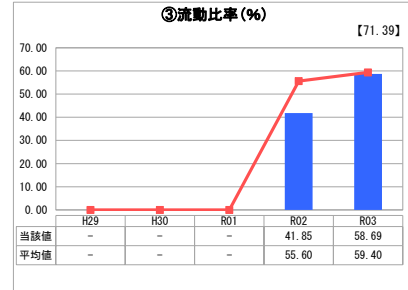
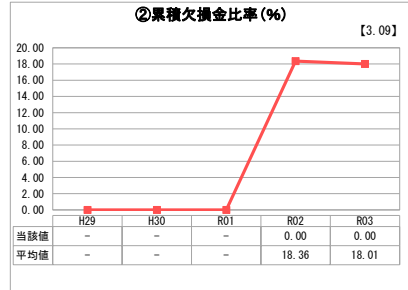
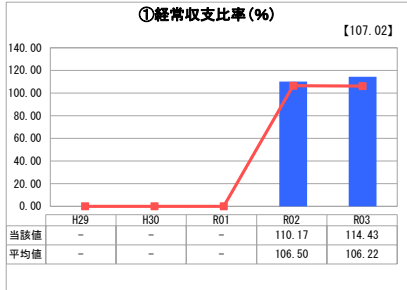
鳥取県 日吉津村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	79.45	99.05	100.00	3,574

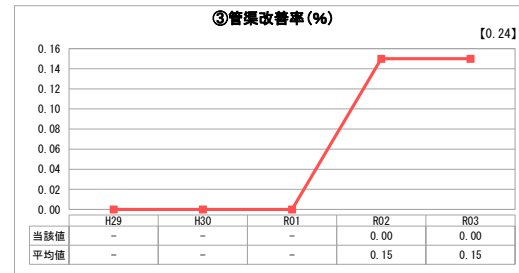
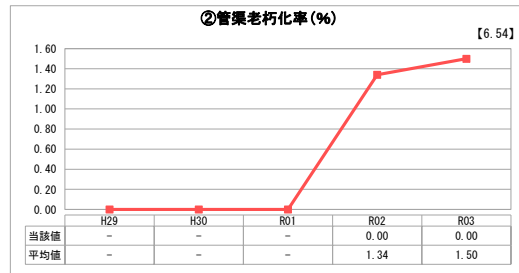
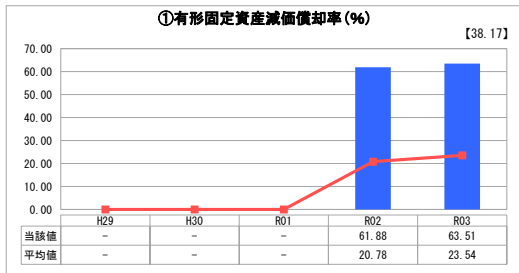
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,575	4.20	851.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,555	0.92	3,864.13

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
本村では、新型コロナウイルス感染症経済対策により料金軽減を継続しており、汚水処理経費に対する使用料収入不足を繰入金で賄っている状況である。このことにより経常収支比率は100%及び全国平均を超えており、前年と比べても増加傾向にある。

②累積欠損金比率
流動負債の大半を占めている企業債は償還が始まったことによる流動比率の増加は見られるものの、今後も企業債残高は減少する見込みである。

③流動比率、企業債残高対事業規模比率
流動負債の大半を占めている企業債は償還が始まったことによる流動比率の増加は見られるものの、今後も企業債残高は減少する見込みである。

④経費回収率
近年村内の新築住宅の増加傾向により回収率が大幅に増加しているが、今後は経年による管路補修なども考えられることから、将来的な更新投資等の財源のための計画的な管理運営に努める必要がある。

⑤汚水処理原価
人口の増加や企業進出のため年間有収水量も増加が見込まれ、今後も汚水処理原価は減少傾向が見込まれる。

⑥水洗化率
村内ほぼ全てが水洗化されているため横ばいであり、全国平均や類似団体平均を超えている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
全国平均や類似団体平均よりも大きく上回っており、全体的に資産の老朽化の度合いが高くなっている。処理場施設についてはH23～H27に長寿命化を実施したが、沿岸部に立地していることから潮風の影響(塩害)により老朽化のペースが早いので、計画的な更新等を検討する必要がある。

②管渠老朽化率、管渠改善率
管渠施設についてはR38～R41にかけて法定耐用年数の到来がピークを迎えるため、管渠の現状を把握・分析し予防保全型施設管理の手法により、適正な維持管理・延命化に努める必要がある。

全体総括

R2から法適用企業となったため経営比較分析が十分でない部分もあるが、経費削減や事務改善に取り組むことはもとより、将来負担額からみた適正な使用料収入の検討が重要な経営課題となっており、新型コロナウイルス感染症の影響によって段階的な料金軽減の減率を停止していることから、軽減廃止の再開時期の検討と軽減による影響費用額の計算が必要となっている。

また、財務諸表に基づく現状把握と老朽化からみた今後の投資見込等を検証することによって、経営戦略の見直しを行う必要があり、今後も下水道事業の安定的かつ継続的な運営に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。